

授業科目	地域・在宅看護論 [看護実践演習]		担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・3 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	事例をもとに多様な療養者と家族の生活の理解を深め、在宅での支援に必要な看護や社会資源について講義で学んだことを生かし実践を通して考える演習とする。担当者の実務経験談を交え、学生が臨床場面をイメージ化しやすいように学生の考え、演じた内容を学生間で共有した上で助言指導を行っていく演習形態とする。				
到達目標	1. 地域・在宅看護を実践する上で必要な援助技術について実践できる。 2. 地域・在宅看護における多職種との協働や連携について演習を通じ理解できる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	ガイダンス、演習 1 オリエンテーション・演習 1 準備			講義・演習
2	4	演習 1 準備			演習
3	4	ロールプレイング（発表）			演習
4	2	ロールプレイングの振り返り			講義
5	2	演習 2 オリエンテーション・演習 2 準備			講義・演習
6	4	演習 2 準備			演習
7	4	ロールプレイング（発表）			演習
8	2	ロールプレイングの振り返り			講義
9	2	在宅におけるフィジカルアセスメント			講義・演習
1 0	3	シナリオを使用したアセスメント演習と振り返り			演習・講義
1 1	1	演習全体のまとめ 試験（レポート）についての説明			講義
授業時間外の 学習	事例演習を考える上で必要な学習、演習後のレポート作成				
テキスト	系統看護学講座＜専門分野＞「地域・在宅看護論Ⅱ」 医学書院				

参考文献	必用時講義中に紹介していく。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	22.入浴・シャワー浴の介助に関しては、演習中に評価表を使用し、自己と他学生、教員にて代表グループの演習中に評価する。
成績評価の方法と基準	課題レポート（提出状況を含む）50 点、筆記試験 50 点、計 100 点で評価する。

授業科目	統合技術		担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・3 年生				
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。				
授業概要	看護に関する各科目において修得した内容をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図ることをねらいとしている。これまで学習した技術を複数の課題をもつ患者に複合して技術提供できるよう、シミュレーションを通して、安全安楽に実践できることを目指す。さらに、優先すべき事象、予期しない患者の反応、突発的な事象、時間的緊迫に対応できる能力を体得できているか、複数のシナリオの看護場面を技術試験することで評価する。その後の振り返りを通して自己の課題を明確にして統合実習に取り組めるようにする。看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できるよう、急性期病院での実務経験を活かし教授していく。				
到達目標	1. 看護師として必要な知識・技術を統合し、複数の対象の状態に応じた判断及び看護を実践できる 2. 看護の実践者としての自己の課題がわかる				
授業計画			内容		方法
回	時間				
1	2	1. ガイダンス 2. ケーススタディ シナリオ紹介 複数患者の状態把握			講義・演習
2	2	1. 複数患者の状態把握 2. 優先度、時間配分を考えてタイムスケジュール作成			演習
3	2	1. 複数患者の状態把握 2. 優先度、時間配分を考えてタイムスケジュール作成			発表・講義
4	2	患者の状態を踏まえた援助技術の根拠の理解			演習
5	2	患者の状態を踏まえた援助技術の根拠の理解			演習
6	4	経管栄養法による流動食の注入 浣腸 摘便 ネブライザーを用いた気道内加湿 いずれかの技術演習 各グループの発表			技術演習
7	4	経管栄養法による流動食の注入 浣腸 摘便 ネブライザーを用いた気道内加湿 いずれかの技術演習			技術演習
8	2	臨床多重課題シナリオ（ロールプレイングの準備）			演習
9	2	臨床多重課題シナリオ（ロールプレイングの準備）			演習
1 0	2	臨床多重課題シナリオ（ロールプレイング）			技術演習
1 1	2	1. 技術試験オリエンテーション 2. 技術テストに向けた練習			オリエンテーション・ 技術演習
1 2	4	技術テストに向けた練習			技術演習

授業時間外の学習	・各演習、技術演習前には、事前学習が必要となる。 ・第3回発表前には発表用資料を作成する。第2回の授業内で完成しない場合は時間外での作成が必要となる。 ・第6・7回技術演習前に手順書の作成、印刷を行う。第4・5回の授業内で完成しない場合は時間外でグループでの作成が必要となる。 ・第10回技術演習前ロールプレイングの準備を行う。第8・9回の授業内で完成しない場合は時間外でグループでの作成が必要となる。
テキスト	茂野香おる 他：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子 他：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 その他、各看護学領域での使用教科書
参考文献	各看護学領域での使用教科書
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	①次の技術について自己評価にて到達度、手順、正確性、迅速性を評価する。 ・食事の援助技術の5.経管栄養法による流動食の注入 ・排泄援助技術の10.浣腸、11.排便 ・呼吸・循環を整える技術の31.ネブライザーを用いた気道内加湿 ②さらに、上記のいずれかの技術について技術試験を行う。
成績評価の方法と基準	【評価①】課題レポート・受講態度：60点で評価する。 ①複数患者のタイムスケジュール ②患者の状態を踏まえた援助計画 ・評価については、評価表を配布する。 ・課題レポートの提出遅れは1日ごとに減点とする。 【評価②】技術試験：評価表を配布し、100点で評価し、60点以上を合格とする。 技術試験については、別途オリエンテーションを行う。 複数のシナリオの看護場面を設定し試験を行う。(経管栄養法による流動食の注入、浣腸、排便、ネブライザーを用いた気道内加湿のいずれかの技術を含む) 試験終了直後に自己評価を行い、客観的に自己を見つめることができていたか教員と共に確認する。 科目の評価は、評価①課題レポート・受講態度 60%、評価②技術試験 40%で算出する。

授業科目	医療安全		担当教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位 30 時間			所属	専任教員
対象学年	2025 年度・3 年生				
受講要件	なし				
授業概要	患者や家族の安全を保証することは看護職の責務である。安全で質の高い医療を提供するために、医療安全の基礎的知識を学ばせる。人間の特性を前提とし、医療事故が起きやすい状況や背景、また回避するための方策を考え理解させる。				
到達目標	1. 安全な医療を提供するために必要な知識と技術、考え方を理解する。 2. 医療事故の現状を理解し、必要な対応（事故防止・発生時の対応）を考えることができる。 3. 看護者の倫理的態度について考え、よりよい行動を考えることができる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	ガイダンス（科目の目標・学習内容など） 医療事故の考え方 医療安全における看護師の役割			講義
2	2	事故防止のための知識と技術（起こりやすい事故への対策）			演習
3	2				
4	2				
5	2	KYT（危険予知訓練）			講義・演習
6	2				
7	2	実習場面を振り返る			演習
8	2	医療事故分析			講義
9	2				演習
1 0	2				
1 1	2	医療安全と倫理的行動			講義・演習
1 2	2				演習
1 3	2	事故発生時の対応			講義・演習
1 4	2				演習
1 5	2	医療安全対策、医療安全と看護記録			講義
授業時間外の学習	・円滑にグループワークを行うために、事前に項目について調べておく。 ・グループワークでの学びを授業で発表する。発表前は発表準備を行い、発表後はレポート課題がある。				
テキスト	川村治子 他：系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践（2）医療安全，医学書院				
参考文献	授業中に必要に応じて指示する				

「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	安全管理の技術の 63.インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告の技術に関して、正確性、迅速性を評価する。発表の学生に関しては教員評価、自己評価を行い、その他の学生は学生間で評価、自己評価を行う。
成績評価の方法と基準	・グループワーク（個人レポート含む）70 点、筆記試験（45 分）30 点、計 100 点で評価する。 ・レポートの提出期限の遅れは減点する。

授業科目	災害看護と国際看護	担当教員	氏名	① 尾倉幸奈 ② 岩崎三佳
単位・時間数	1 単位・30 時間			
対象学生	2025 年度・3 年生		所属	① 専任教員 ② 神戸大学大学院
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
授業概要	災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職者は健康に関わる専門職として、役割を発揮していくことが求められる。災害により生命や健康生活への被害を少なくするための予防から災害後の看護活動について考え、理解することを目指す。演習を通し救護活動の実際を体験することで、実践的な学びが得られるよう、急性期病院での経験を活かし教授する。 グローバル化が進み、日本国内でも外国人の患者を看護する機会が増加しており、国際看護の重要性はますます大きくなっている。看護師として、すべての人に対し同等の看護を提供するために、海外の多様な文化や背景を知り、グローバルな視点で看護の共通の課題は何かを考えられるよう担当教員の実務経験を交えながら授業を行う。			
到達目標	1. 災害各期における看護の役割を知り、看護活動ができる基本的な知識を理解することができる 2. 救護活動の実際を理解することができる 3. グローバル社会における健康課題と国際機関の役割と機能について理解する 4. 世界の各地域における看護の在り様や実践、及び国際保健・看護の取り組みと課題について理解する 5. グローバル社会における看護活動を理解する			
授業計画		内容	方法	
回	時間			
1	2	災害概論 災害の特徴・災害と法制度・災害時の支援体制と医療体制	講義	
2	2	災害の種類と特徴 災害の種類・災害と健康障害	講義	
3	2	災害各期の看護 災害看護の特徴 災害各期の特徴と看護	講義	
4	2	被災者特性に応じた災害看護	講義・演習	
5	2	被災者特性に応じた災害看護	講義・演習	
6	2	看護災害とこころのケア	講義	
7	4	救護活動の実際の理解 保健医療の役割と看護 （生命危機状態の看護実習：災害看護 を基にした演習）	講義・演習	
8	4	救護活動の実際の理解 保健医療の役割と看護 まとめ	演習	
9	2	国際看護学とは ・世界の健康問題と現状 ・国際看護学の定義・目的 ・国際看護学に関連する基礎知識	講義	

1 0	2	国際協力のしくみ・国際救援と看護	講義
1 1	1	諸外国の看護教育	講義
1 2	3	異文化理解と看護	講義・演習
1 3	2	多様な文化と看護に共通する課題	演習
授業時間外の学習		・「石巻赤十字病院の 100 日間」を読み、課題に沿ってレポートする。	
テキスト		浦田喜久子 編集：災害看護・国際看護，医学書院	
参考文献		由井りょう子：石巻赤十字病院の 100 日間，小学館 その他、授業中に必要に応じ指示する。	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		災害看護：グループワーク（個人レポート含む）70 点、筆記試験（45 分）30 点、計 100 点で評価する。レポートの提出期限の遅れは減点する。 国際看護：講義への参加度とレポートで評価（100 点）する。 災害看護、国際看護ともに 60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、災害看護 60%、国際看護 40%で算出する。	

授業科目	チーム医療と看護管理		担当教員	氏名	① 尾倉幸奈 ② 藤田 恵美
単位・時間数	1 単位・15 時間				
対象学生	2025 年度・3 年生			所属	① 専任教員 ② 北九州総合病院
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。			担当者実務経験	①病院にて看護師として勤務 ②病院に看護副部長として勤務
授業概要	チーム医療を推進する目的は、専門職種の積極的な活用、多職種間協働を図ること等により医療の質を高めるとともに、効率的な医療サービスを提供することにある。多職種との協働の中での看護師としてのリーダーシップとメンバーシップについて、講義・演習を通し理解できるよう急性期病院での経験を活かし教授する。 さらに、看護管理の概念と原則を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職者個人および看護組織が担う役割の理解を目指す。組織と個人の関係、組織のマネジメントについて理解し、管理的視点をもった看護職者となるよう、また看護をめぐる法律、社会の仕組みや変遷について学び、これからの看護職者としての役割を考えることができるよう、看護管理者として看護の現場と関連させながら教授する。				
到達目標	1．チーム医療、多職種との協働の中で、看護師としてのリーダーシップとメンバーシップを理解することができる 2．質の高い看護を提供するためのマネジメントを理解することができる 3．看護職の教育制度と人材育成について理解することができる 4．看護活動を取り巻く法律・制度を理解することができる				
授業計画			内容		方法
回	時間				
1	2	チーム医療 ・チーム医療とは ・チーム医療に必要な機能 ・看護職の責任と役割 ・多職種との連携・協働 ・リーダーシップとメンバーシップ			講義
2	3	各医療チームにおける役割と専門性 (統合実習：チーム医療活動見学 を基にした演習)			講義・演習
3	2	看護とマネジメント			講義
4	2	看護ケアのマネジメント			講義
5	2	看護職のキャリアマネジメント			講義
6	2	看護サービスのマネジメント			講義
7	2	マネジメントに必要な知識と技術 看護を取り巻く諸制度			講義
授業時間外の学習		各時間の予習復習を行う。			
テキスト		上泉和子 他：看護管理，医学書院			

参考文献	必要時指示する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	チーム医療は講義への参加度とレポートで評価（100 点）する。 看護管理は 100 点のテストを行う。 チーム医療、看護管理ともに 60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、チーム医療 30%、看護管理 70%で算出する。

授業科目	看護観演習		担当 教員	氏名	尾倉幸奈
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・3 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。				
授業概要	看護観は看護実践の核となり、また専門職業人（看護師）としての自己のあり方を決定するものである。臨地実習で体験した看護場面の分析を通して、看護において自分自身が大切にしたいことや看護についての考え方をリフレクションやナラティブを通して明らかにする。専門職業人としての核となる看護観を論理的に表現するとともに、これからの看護実践への動機づけとし、看護実践から学び得る力を身につける。また論文としてまとめることで、論文のまとめ方、発表の仕方を学ぶ。リフレクションの理論とともに教員の看護師としての自己洞察の経験も活かして指導を行う。				
到達目標	1．実習中の看護実践の中から得られた知を省察し、看護観を表現できる 2．個々の学生の知を共有できる 3．省察する意義を実感し、専門職業人として自己研鑽する必要性を理解する				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	ガイダンス（科目の目標・学習内容など）		講義	
2	2	看護体験を語る（準備）		演習	
3	4	看護体験を語る（グループワーク）		演習	
4	2	論文作成計画立案		演習	
5	4	論文作成　：　草稿発表（グループワーク）		演習	
6	2	発表会準備　：　発表原稿作成、プログラム作成、役割分担		演習	
7	2	発表会準備　：　各係の打合せ、発表練習		演習	
8	2	発表会準備　：　会場準備、リハーサル		演習	
9	8	看護観演習発表会		演習	
1 0	2	まとめ		講義・演習	
授業時間外の 学習	・実習中に 5～7 場面をリフレクションし、実習担当教員に提出する。 ・草稿、論文、発表原稿を期限内に看護観担当教員に提出し、看護観発表ができるよう計画的に進める。				
テキスト	なし				
参考文献	看護観担当教員が必要に応じて指定する。				
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし				

成績評価の方法と基準	学習の取り組み状況 50 点、論文内容 50 点、計 100 点を看護観演習評価表を用いて評価する。 リフレクション記録の不足、提出期限の遅れは減点する。
------------	---

授業科目	地域・在宅看護論実習 2			担当教員	氏名	福田 敦子																
単位・時間数	2 単位・90 時間				所属	専任教員																
対象学年	2025 年度・3 年生																					
受講要件	1・2 年次配当の授業科目の単位をすべて修得している。																					
授業概要	訪問看護に同行し、健康問題をもつ在宅療養者の看護の実際を学ぶ。各々の家庭の中で援助するためには、看護者と療養者およびその家族との関係性が重要であり、療養者および家族の意思や価値観を大切にし、ニーズに応えられる看護の提供について学ぶ。区分 A. Bを通して、対象を理解し対象に応じた日常生活援助の実際を学ぶとともに、社会資源の活用も含め地域・在宅療養の課題（生命維持の難しさや日常生活上での困難さなど）について学ぶ。また、利用者および家族のニーズを理解し、ケアマネジメントのプロセスと社会資源の活用について学ぶ。																					
到達目標	1. 訪問看護ステーションの役割、運営管理について理解できる。 2. 在宅療養者とその家族及び生活の場が理解できる。 3. 在宅療養者と家族の特徴を踏まえた看護過程が展開できる。 4. 在宅における看護実践の方法を知り、その一部を安全に実施できる。 5. 在宅療養に関連する多職種の協働・連携について理解できる。 6. 地域で生活している対象への看護のあり方について考え、主体的に学習できる。 7. 地域・在宅療養者の生活を支える通所介護について理解することができる。 8. 地域・在宅療養者の生活を支える訪問入浴サービスについて理解できる。																					
実習の概要	<table><tr><th>区分</th><th>単位</th><th>時間</th><th>内容</th><th>時期</th><th>場所</th></tr><tr><td>A. 訪問看護</td><td rowspan="2">2</td><td>78</td><td>1. 訪問看護ステーションの機能・役割 2. 訪問看護活動の実際 3. 対象者を支える職種と支援の実際 4. 多職種連携 5. 在宅療養者の支援と看護の役割</td><td rowspan="2">6 月 ～10 月</td><td>①訪問看護ステーション ②学内</td></tr><tr><td>B. 在宅を支える看護</td><td>12</td><td>1. 在宅療養を支える多職種（サービス）の役割と支援の実際</td><td>①デイサービス ②訪問入浴サービス</td></tr></table>						区分	単位	時間	内容	時期	場所	A. 訪問看護	2	78	1. 訪問看護ステーションの機能・役割 2. 訪問看護活動の実際 3. 対象者を支える職種と支援の実際 4. 多職種連携 5. 在宅療養者の支援と看護の役割	6 月 ～10 月	①訪問看護ステーション ②学内	B. 在宅を支える看護	12	1. 在宅療養を支える多職種（サービス）の役割と支援の実際	①デイサービス ②訪問入浴サービス
区分	単位	時間	内容	時期	場所																	
A. 訪問看護	2	78	1. 訪問看護ステーションの機能・役割 2. 訪問看護活動の実際 3. 対象者を支える職種と支援の実際 4. 多職種連携 5. 在宅療養者の支援と看護の役割	6 月 ～10 月	①訪問看護ステーション ②学内																	
B. 在宅を支える看護		12	1. 在宅療養を支える多職種（サービス）の役割と支援の実際		①デイサービス ②訪問入浴サービス																	
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。																					
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1，医学書院 河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2，医学書院																					
参考文献																						
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。																					

授業科目	成人・老年看護学実習 1	担当教員	氏名	岩丸 花奈 中山 仁美													
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員													
対象学年	2025 年度・3 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務													
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて習得している。																
授業概要	成人・老年看護学実習 1 では、成人・老年期にある対象の特徴を理解し、回復期～慢性期の健康レベルに応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を習得させたい。健康レベルの変化を疾病の経過という視点のみならず、対象の生活へ影響という視点も含め捉えさせる。 担当教員の看護師としての実務経験を活かして実習指導を行う。																
到達目標	1. 健康障害を持つ成人・老年期にある対象が理解できる。 2. 回復期～慢性期における対象のセルフケア能力に応じた健康維持や日常生活の自立にむけた計画立案・援助が実施できる。 3. 対象や家族の権利や尊厳の尊重ができる。 4. 生活再構築、QOL 維持・向上において様々な役割・機能を担っている多職種との連携の必要性が理解できる。 5. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と専門職業人としての態度が習得できる。																
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>成人・老年看護学実習 1</td><td>2</td><td>90</td><td>1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、回復期～慢性期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害が対象の生活に及ぼす影響や健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 3. セルフケア能力に応じた健康維持や日常生活の自立に向けた援助 4. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 5. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 6. 医療チームの一員としての協働 7. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 8. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得</td><td>令和 7 年 5 月～7 月</td><td>北九州 総合病院 病棟 学内</td></tr></table> *その他詳細は実習要綱参照					区分	単位	時間	内容	時期	場所	成人・老年看護学実習 1	2	90	1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、回復期～慢性期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害が対象の生活に及ぼす影響や健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 3. セルフケア能力に応じた健康維持や日常生活の自立に向けた援助 4. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 5. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 6. 医療チームの一員としての協働 7. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 8. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得	令和 7 年 5 月～7 月	北九州 総合病院 病棟 学内
区分	単位	時間	内容	時期	場所												
成人・老年看護学実習 1	2	90	1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、回復期～慢性期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害が対象の生活に及ぼす影響や健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 3. セルフケア能力に応じた健康維持や日常生活の自立に向けた援助 4. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 5. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 6. 医療チームの一員としての協働 7. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 8. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得	令和 7 年 5 月～7 月	北九州 総合病院 病棟 学内												
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。																
テキスト	基礎看護学、老年看護学、成人看護学で使用した教科書																
参考文献	実習中に必要に応じて指定する。																

成績評価の 方法と基準	実習要綱に準ずる。
------------------------	------------------

授業科目	成人・老年看護学実習 2	担当教員	氏名	岩丸 花奈 中山 仁美												
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員												
対象学年	2025 年度・3 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務												
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて習得している。															
授業概要	成人・老年看護学実習 2 では、成人・老年期にある対象の特徴を理解し、急性期～回復期の健康レベルに応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を習得させたい。健康レベルの変化を疾病の経過という視点のみならず、対象の生活へ影響という視点も含め捉えさせる。 担当教員の看護師としての実務経験を活かして実習指導を行う。															
到達目標	1. 健康障害を持つ成人・老年期にある対象が理解できる。 2. 対象の生命の危機回避、健康状態の悪化予防に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けた援助ができる。 3. 対象や家族の権利や尊厳の尊重ができる。 4. 生命の危機回避・QOL 維持・向上において様々な役割・機能を担っている多職種との連携の必要性が理解できる。 5. 自己の看護観を深め、専門職としての看護の態度が習得できる。															
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>成人・老年看護学実習 2</td><td>2</td><td>90</td><td>1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、周手術期・急性期～回復期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害の病態・検査治療・症状が患者の生活や心理に及ぼす影響の理解 3. 対象の健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 4. 対象の病態悪化の防止に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けての援助 5. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 6. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 7. 医療チームの一員としての協働 8. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 9. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得</td><td>令和 7 年 7 月～9 月</td><td>北九州 総合病院 病棟 学内</td></tr></table>				区分	単位	時間	内容	時期	場所	成人・老年看護学実習 2	2	90	1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、周手術期・急性期～回復期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害の病態・検査治療・症状が患者の生活や心理に及ぼす影響の理解 3. 対象の健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 4. 対象の病態悪化の防止に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けての援助 5. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 6. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 7. 医療チームの一員としての協働 8. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 9. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得	令和 7 年 7 月～9 月	北九州 総合病院 病棟 学内
	区分	単位	時間	内容	時期	場所										
成人・老年看護学実習 2	2	90	1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、周手術期・急性期～回復期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害の病態・検査治療・症状が患者の生活や心理に及ぼす影響の理解 3. 対象の健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 4. 対象の病態悪化の防止に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けての援助 5. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 6. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 7. 医療チームの一員としての協働 8. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 9. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得	令和 7 年 7 月～9 月	北九州 総合病院 病棟 学内											
	＊その他詳細は実習要綱参照															
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。															
テキスト	基礎看護学、老年看護学、成人看護学で使用した教科書															

参考文献	実習中に必要に応じて指定する。
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。

授業科目	小児看護学実習	担当教員	氏名	松井 なつみ		
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員		
対象学年	2025 年度・3 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。					
授業概要	小児看護学実習 A では、子どもの成長・発達をふまえ、子どもの健康状態に応じた子どもと家族への看護を実践するための基礎的能力を養うように教授する。また、発達障害・肢体不自由の子どもや家族のおかれている現状を知り障がいのある子どもの理解を深める。 小児看護学実習 B では、健康障害をもつ子ども及び家族に対し、成長・発達に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得するように教授する。					
到達目標	1. 子どもの身体的・精神的・社会的特徴を統合的にとらえ、子どもの育ちを支え人々や社会の仕組みについて理解し、成長・発達を促すための援助の基本を習得できる。 2. 子どもに特有な諸症状と、入院や治療が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、発達段階と疾患の状態に応じた適切な援助を行うことができる。 3. 子どもにふさわしい生活環境及び入院環境の調整について理解し、子どもの発達段階や疾患の状態、環境に応じた安全・事故防止への援助や小児看護技術を習得できる。 4. 子どもと家族を取り巻く医療チームの一員としての看護師の役割、協働の必要性が理解できる。 5. 健全な子ども観を養い、看護師として必要な態度を習得することができる。					
実習の概要						
	区分	単位	時間	内容	時期	場所
	A. 子どもの理解 ①健康な子どもの理解 ②障害をもつ子どもの理解	1	21	①保育所 ・健康な乳幼児の特徴の理解 ・安全な環境の理解 ・コミュニケーションの特徴の理解と乳幼児とのコミュニケーション ・乳幼児の遊びの意義の理解と実際 ・乳幼児の基本的生活習慣の援助の方法 ②北九州市立総合療育センター ・障害のある子どもと家族の理解 ・子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉チームの協働	5 月～ 7 月	①聖母園 あけぼの保育園 あけぼの愛育保育園 ②北九州市立総合療育センター
	B. 健康障害をもつ子どもの看護	1	69	・小児科外来を受診する子どもと家族の理解 ・小児科外来の看護師の役割の理解 ・健康障害をもつ子どもの成長発達段階及び家族の状況の理解 ・健康障害をもつ子どもの看護 ・子どもと家族を取り巻く医療チームの一員としての看護師の役割と協働の必要性の理解 ・子ども観、小児看護観	5 月～ 1 1 月	北九州総合病院

*その他詳細は実習要綱参照

授業時間外の 学習	実習前に事前課題を提示する。 A. 保育所・北九州市立総合療育センター実習事前学習 テーマ「乳幼児期の小児を理解するために必要なこと」 B. 外来／病棟実習事前学習 テーマ1 「小児科外来について」 テーマ2 「健康障害を持つ小児及び家族の理解を深めるためには」 上記内容で、実習中に活用できるようにまとめる。
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院 奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学各論，医学書院 任和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	鴨下重彦，柳澤正義監修：子どもの病気の地図帳，講談社 筒井真優美：小児看護学 日総研 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規 東海林宏道・山本英一他監修：病気がみえる⑩小児科，メディックメディア
成績評価の 方法と基準	実習要綱に準ずる。

授業科目	母性看護学実習			担当 教員	氏名	平川 宣子																	
単位 時間数	2 単位・90 時間				所属	専任教員																	
対象学生	2025 年度・3 年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																	
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。																						
授業概要	学内での学習をもとに、周産期（妊娠・分娩・産褥期）にある母親と新生児及びライフステージ各期にある女性の看護を理解させる。母性看護学実習では母児とその家族の全体像を把握し看護実践を通して必要な援助が提供できる基礎的能力を身につけさせる。また、母児及びその家族に対して看護専門職者が果たすべき役割、他職種との連携について理解させる。地域社会で行われている子育て支援のサポートの実際から子育て支援の必要性を理解させる。さらに生命の尊厳についての認識や自己の母性観・父性観を育む機会となるよう実務経験を活かして実習指導を行う。																						
到達目標	1. 正常な妊娠・分娩・産褥各期の経過と胎児及び新生児の成長発達の経過を理解できる。 2. 母性看護に必要な援助技術を実践できる。 3. 母性看護に必要な母児及び家族への保健指導の実際を理解できる。 4. 女性のライフサイクル各期における看護を理解できる。 5. 子育て支援の実際や必要性を理解できる。 6. 自己の母性観・父性観を養うことができる。																						
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>A 周産期の看護</td><td rowspan="2">2</td><td>76</td><td>1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 2. 妊娠・産褥・新生児期の保健指導 3. 女性のライフサイクル各期の看護</td><td>5～10 月</td><td>北九州総合病院 助産師外来 4 階東病棟 学内 4 時間 (事例検討会)</td></tr><tr><td>B 子育て支援</td><td>14</td><td>1. 子育て支援の実際</td><td>5～10 月</td><td>北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター</td></tr></table>						区分	単位	時間	内容	時期	場所	A 周産期の看護	2	76	1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 2. 妊娠・産褥・新生児期の保健指導 3. 女性のライフサイクル各期の看護	5～10 月	北九州総合病院 助産師外来 4 階東病棟 学内 4 時間 (事例検討会)	B 子育て支援	14	1. 子育て支援の実際	5～10 月	北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター
	区分	単位	時間	内容	時期	場所																	
	A 周産期の看護	2	76	1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 2. 妊娠・産褥・新生児期の保健指導 3. 女性のライフサイクル各期の看護	5～10 月	北九州総合病院 助産師外来 4 階東病棟 学内 4 時間 (事例検討会)																	
B 子育て支援	14		1. 子育て支援の実際	5～10 月	北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター																		
	＊その他詳細は実習要綱参照																						
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。																						
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論，医学書院 森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論，医学書院																						
文献	谷津 裕子 他監修：看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ，MEDIC MEDIA 石村由利子：根拠と事故防止からみた母性看護技術，医学書院 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他監修：病気がみえる vol.10 産科，MEDIC MEDIA など 平沢美恵子：写真でわかる母性看護技術アドバンス，インターメディカ 櫛引美代子：カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術，医歯薬出版																						

成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる
------------	----------

授業科目	精神看護学実習			担当教員	氏名	鉾賀 千夏																				
単位・時間数	2 単位・90 時間				所属	専任教員																				
対象学年	2025 年度・2 年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																				
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。																									
授業概要	精神看護学実習では、精神保健・医療・福祉における看護師の役割・機能を理解し、精神に障害をもつ人およびその家族の理解を深め、精神の健康回復をはかる看護を実践するための基礎的能力を習得できるよう教授する。 A.精神科病院実習では、精神科病棟の特殊性を理解するとともに、精神に障害をもつ対象の生きにくさやストレスを把握したうえで、個別性をふまえた看護を展開できるよう教授する。また、精神に障害をもつ対象と関わることで、治療的援助関係について考えることができるよう教授する。 B.地域における精神障害をもつ対象者（児）の理解では、地域で生活している精神に障害をもつ対象者（児）の特徴や現状を知り、精神障害者が社会復帰・社会参加するために必要な支援について看護師・個人として実施できることを考える機会となるよう教授する。 実習を通して、健全な精神障害者観を養い、心のケアを行うための基本的態度を習得できるよう担当教員は看護師としての実務経験を活かして教授する。																									
到達目標	1. ライフサイクルの各段階における精神に障害をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 2. 精神に障害をもつ人を取り巻く環境および精神の疾患や障害に伴う患者・家族の日常生活への影響を理解できる。 3. 対象者の特徴（人格・背景・疾患や症状・生きづらさなど）を踏まえ、対象のリカバリーを支える看護を展開できる。 4. 対象との人間関係構築の過程を通して自己洞察を深め、治療的な関わりをもつことができる。 5. 精神保健医療福祉チームのメンバーとの連携と看護師の役割・機能が理解できる。 6. 地域で生活する精神障害者の現状と支援体制を理解できる。 7. 健全な精神障害者観を養い、心のケアを行うための基本的態度を習得できる。																									
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>実習 A. 精神科病院</td><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">90</td><td>精神に障害をもつ対象の理解とその看護</td><td>3 年次 5～10 月 10 日間</td><td>南ヶ丘病院 または 小倉蒲生病院</td></tr><tr><td>者 B. 地域における精神障害をもつ対象（児）の理解</td><td>①地域で生活する精神障害をもつ対象の理解と社会復帰を支える支援の理解</td><td>3 年次 7～10 月 (1 日間)</td><td>北九州市立浅野社会復帰センター</td></tr><tr><td></td><td>②知的障害・発達障害をもつ小児の理解とその療育</td><td>3 年次 9～10 月 (1 日間)</td><td>あゆみひまわり学園</td></tr></table> *その他詳細は実習要綱参照						区分	単位	時間	内容	時期	場所	実習 A. 精神科病院	2	90	精神に障害をもつ対象の理解とその看護	3 年次 5～10 月 10 日間	南ヶ丘病院 または 小倉蒲生病院	者 B. 地域における精神障害をもつ対象（児）の理解	①地域で生活する精神障害をもつ対象の理解と社会復帰を支える支援の理解	3 年次 7～10 月 (1 日間)	北九州市立浅野社会復帰センター		②知的障害・発達障害をもつ小児の理解とその療育	3 年次 9～10 月 (1 日間)	あゆみひまわり学園
区分	単位	時間	内容	時期	場所																					
実習 A. 精神科病院	2	90	精神に障害をもつ対象の理解とその看護	3 年次 5～10 月 10 日間	南ヶ丘病院 または 小倉蒲生病院																					
者 B. 地域における精神障害をもつ対象（児）の理解			①地域で生活する精神障害をもつ対象の理解と社会復帰を支える支援の理解	3 年次 7～10 月 (1 日間)	北九州市立浅野社会復帰センター																					
			②知的障害・発達障害をもつ小児の理解とその療育	3 年次 9～10 月 (1 日間)	あゆみひまわり学園																					

授業時間外の 学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。
テキスト	武井麻子 他：系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎，医学書院 武井麻子 他：系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開，医学書院
参考文献	実習中に必要に応じて指定する。
成績評価の 方法と基準	実習要綱に準ずる。

授業科目	統合実習	担当 教員	氏名	尾倉 幸奈													
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員													
対象学年	2025 年度・3 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務													
受講要件	1・2 年次配当の授業科目の単位をすべて修得している。																
授業概要	複数患者の受け持ちや夜間実習を通して、看護の役割と看護師の行動を理解し、チームナーシングを円滑に行うための看護実践ができることを目指す。担当教員は看護師としての実務経験を活かし、看護の判断、優先順位の判断、時間管理の方法、医療チーム・看護チームとの連携等についても指導する。																
到達目標	1. 複数患者を受け持ち、必要な援助と優先順位を判断し、医療・看護チームと連携しつつ看護実践ができる。 2. 多職種との協働の実際と医療チームにおける看護師の役割が理解できる。 3. 夜間の患者の状況を理解し、看護活動の理解を深めることができる。 4. 専門職業人としての看護師の態度が習得できる。																
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>統合実習</td><td>2</td><td>90</td><td>1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得</td><td>11 月</td><td>北九州総合病院</td></tr></table> *その他詳細は実習要綱参照					区分	単位	時間	内容	時期	場所	統合実習	2	90	1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得	11 月	北九州総合病院
区分	単位	時間	内容	時期	場所												
統合実習	2	90	1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得	11 月	北九州総合病院												
授業時間外の学習	1.事前学習 ①看護の組織、職位と役割、円滑に運営するための各自の役割 ②リーダーシップとフォロワーシップ ③看護職者の自律性 ④病棟における安全管理 ⑤多職種との連携・協働 ⑥チーム医療における看護の役割 2.受け持ち患者の看護に必要な事項																
テキスト	各看護学教科書 上泉和子他：系統看護学講座 看護の統合と実践[1] 看護管理																
参考文献	学内図書室にある看護系の図書																
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。																

授業科目	生命危機状態の看護実習			担当教員	氏名	尾倉 幸奈 岩丸 花奈 中山 仁美	
単位・時間数	1 単位・45 時間				所属	専任教員	
対象学年	2025 年度・3 年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて習得している。						
授業概要	生命危機状態の看護実習では、生命危機状態にある対象の特徴を理解し、状況に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得させたい。看護の実践のみならず生命危機状態にある対象とその家族の心理的特徴を理解し、支える看護とは何か考えられるようにしたい。実習を通して、災害看護では、医療従事者の一員として地域の救助活動に参加できる基礎的知識・態度を習得させたい。集中治療室では、生命危機状態にある対象とその家族のおかれている状況を知り、生理的ニーズの充足と精神的安定のための看護の実際から集中治療室における看護師の役割・態度について学んでほしい。手術室では手術を受ける患者がおかれている状況を知り、手術中の安全と緊張緩和のための看護について学んでほしい。人生の終焉を支える看護では終末期にある患者や家族の状況を知り、人生の最期の時を支援する看護の役割について学びを深めてほしい。担当教員の看護師としての実務経験を活かして実習指導を行う。						
到達目標	1. 部隊見学を通し、自衛隊の活動を知り、自衛隊の災害救護活動の概要を知ることができる。 2. 災害時に求められる看護師の役割について考えることができる。 3. 手術を受ける患者が安全に手術を受けるための看護が理解できる。 4. 手術を受ける患者の置かれている状況を知り、手術中の看護について理解できる。 5. 生命危機状態にある患者の生命維持のための治療とその環境が理解できる。 6. 生命危機状態にある患者と家族の特徴を理解し、早期回復外の看護の役割が理解できる。 7. 終末期にある患者や家族状況を知り、人生の最期の時を支援する看護の役割が理解できる。						
実習の概要	科目	単位	区分	時間		内容	実習場所
	生命危機状態の看護実習	1	A.生命危機状態の対象に対する看護 災害看護	45	10 臨地 7 時間 学内 3 時間	1. 災害における自衛隊の役割と被災者支援の実際 2. 災害時初期救護活動と連携 3. 災害に対する取り組み	陸上自衛隊福岡駐屯地
			B.生命危機状態の対象に対する看護 ①集中治療室		28 OR4 時間 ①8 時間×2 日	1. 治療環境の理解 2. 対象の症状とアセスメント 3. 生命維持のための治療と看護 4. 二次的障害予防 5. 対象や家族の精神的苦痛の緩和のための援助 6. 多職種と連携	北九州総合病院 集中治療室

			②手術室		②8 時間×1 日	1.手術を安全に施行するための環境 2.手術を円滑に進めるための看護の実際 3.病棟・多職種との連携	北九州総合病院 手術室	
			C.人生の終焉を支える看護		7 臨地 5 時間 学内 2 時間	1.終末期にある患者と家族を支える看護の理解 2.緩和ケアの目的・概要 3.緩和ケアの実際 4.患者と家族を支える看護 5.多職種との連携	聖ヨハネ病院 学内	
	*その他詳細は実習要綱参照							
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。							
テキスト	災害看護・成人看護学・老年看護学で使用した教科書							
参考文献	実習中に必要に応じて指定する。学内図書室にある看護系の教科書							
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。							